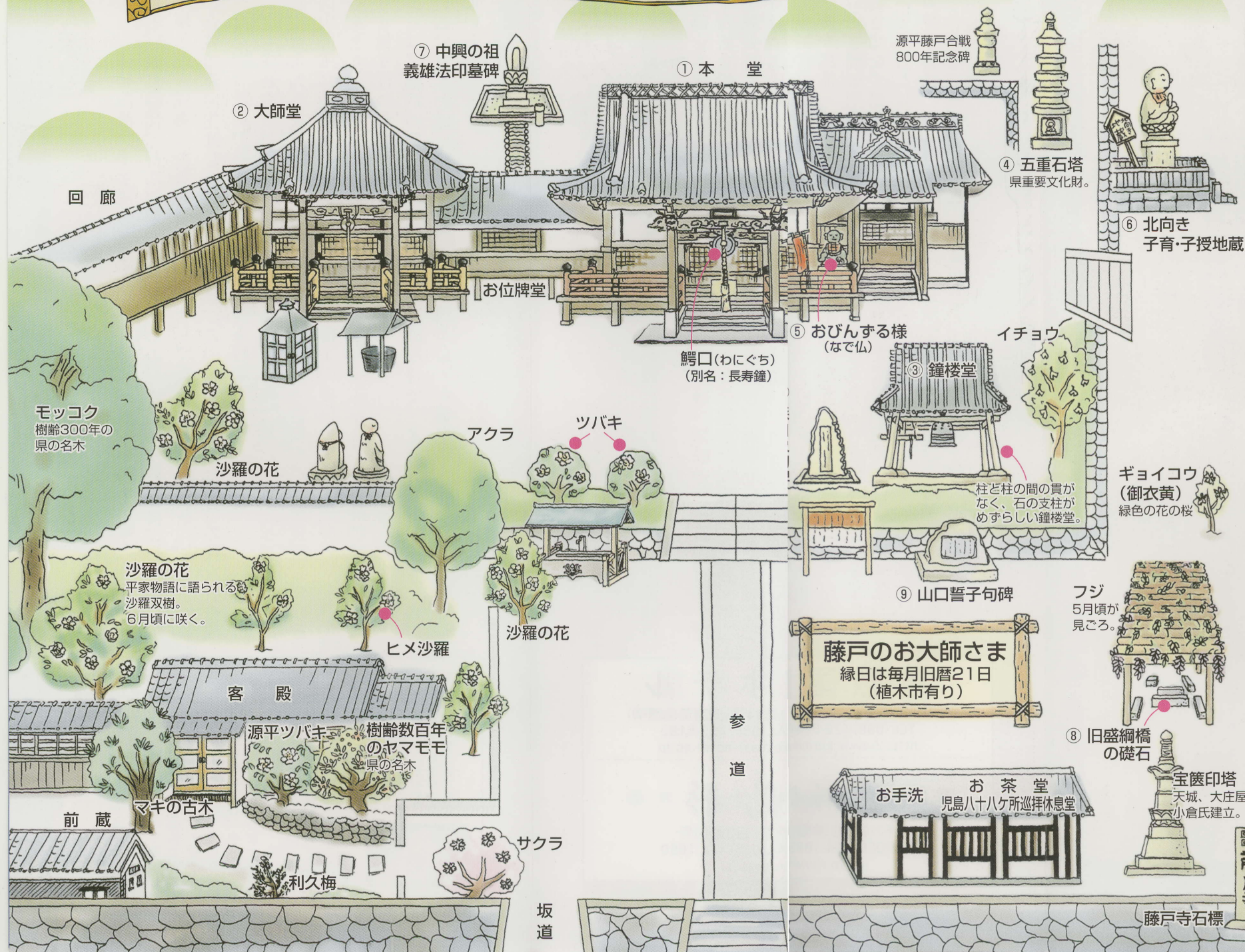


藤戸寺境内あんない絵図



① 本堂

戦国時代兵火にかかり荒廃したが、寛永9年安芸宮島の栄遍僧正が、岡山藩主庇護のもとに再建。後、義雄法印は、本堂・祖師堂・経蔵の再建を発願し、天明元年心血を注ぎ現本堂を再建した。

② 御影堂(弘法大師堂)

志し半ばで遷化した、義雄法印の意志を受け、法如師が文化9年再建。宝形造、本瓦葺。塩飽本島の木工棟梁、佐藤善吉の建築による。

③ 鐘楼堂

円柱の石造四方柱に貫のない珍しい建築技法。古来あった梵鐘は幕末岡山藩に徴用され、明治初年に再鑄されたが大平洋戦争時に併出、現梵鐘は戦後平和を祈り三たび鑄造された。

④ 石造五重層塔

県重要文化財・寛元元年の在銘。鎌倉前期様式を示す優れた作域。源平藤戸合戦の供養塔と伝え、佐々木盛綱の子信綱が造立したという。

⑤ びんずる尊者(賓頭盧尊者)

自分の患部を仏様のその部分に触り、なでさすると御蔭があるという。但馬(兵庫県)の人が病氣平癒を祈って寄進された。

⑥ 北向き地藏尊(子授け地藏)

諸国をめぐる行者、江戸・神田惣七という人が、金毘羅街道を通行する旅人の道中安全と倉敷川を通航する船の無事を祈願し、天保4年に寄進。別名「子授け地藏」と呼ばれ、子宝に恵まれない人がお参りすると願いがかなえられるという。無事出産の暁には、地藏尊の小像をお礼に奉納する風習がある。

⑦ 義雄法印の境墓

当時中興の祖で、生国は讃岐・12歳の時出家・20歳で藤戸寺住職となり本堂の再建・祖師御影彫刻・土砂加持法会の再興にと、ひたすら寺運興隆に勤められた。このお墓に参り遺徳を偲び発願すると大願成就がえられるという。

⑧ 藤戸大橋(現盛綱橋の前身)の台石

江戸時代初めころまでは、藤戸・天城は渡して結ばれていたが、正保4年(1647年)大川(倉敷川)にはじめて橋が架けられた。木造土橋の当時の橋脚に用いられた石柱と基礎石である。

⑨ 句碑

お遍路や 杖を大師とたのみつつ 白象
いま刈田にて 海渡る兵馬見ゆ 誓子

藤戸寺縁起

当寺は、正しくは補陀洛山千手院藤戸寺といい、宗義は高野山真言宗である。寺伝によると、奈良時代、行基菩薩が仏法を広めるため児島の地に巡行した際、藤戸の海より出現した霊験あらたな観音像を本尊として藤戸寺を創建したという。

源平藤戸の合戦で渡海先陣した佐々木盛綱は、この寺の修復と合戦での戦没者や浅瀬を案内させ命を奪った浦の男を弔うため大法要を行なった。

時代と共に寺も盛衰を重ね、戦国時代二度にわたる兵火にあい堂舎ごとごとく焼失した。江戸時代寛永九年宮島宝光院、栄遍阿闍梨は児島の名刹藤戸寺が衰微しているのを見て、岡山藩主に助援を乞い再興した。以来藩主の尊信を受け堂舎が再建された。主な年中行事として、旧暦4月21日に十方壇信徒の祖先供養、「土砂加持法会」は250年余にわたり執り行われている。

毎月旧暦21日は、藤戸のお大師様（弘法大師）の縁日で、老若男女の参拝者と露店で賑わっている。夏至の頃には、「沙羅の花を観る会」が催され大勢の人の目を楽しませてくれている。

源平藤戸合戦

源平藤戸古戦場跡は、倉敷美観地区を源流とし児島湖に流れる、倉敷川の中流藤戸周辺にあたる。

平氏は、屋島を本拠として山陽道に進出を図ろうと、藤戸海峡の西岸市内粒江・種松山山麓に平行盛を総大将として兵を進めた。このことを知った源氏は、元暦元年12月、源範頼を総大将に山陽道を西下、日間山一帯に布陣し、両軍海をはさんで対峙した。平氏の舟は、源氏陣の目前まで漕ぎ出し、渡つてこいと扇を招いて嘲笑するのであった。その武将の一人佐々木盛綱は、ある夜浦の男から浅瀬があることを教えられた。盛綱は、密かに彼を連れ海中に入り目印に小笹をたてた。盛綱は、この秘密を他言されてはと、浦の男を切り捨てた。翌朝馬を海に乗り入れ先陣、激戦の末平氏を屋島へと敗走させた。謡曲『藤戸』は、高名をあげた武将の陰で、愛する子を失った老婆の悲しみを題材として謡われている。

謡曲、歌舞伎、舞踊、オペラなど「藤戸」を演ずる方々は当時を偲び藤戸寺を訪れ、合戦の供養をされている。周辺には、乗り出し岩・笹無山・経ヶ島・浮洲岩・先陣庵など古跡がある。

沙羅の花（平家物語の沙羅双樹）

ツバキ科落葉高木のナツツバキを沙羅双樹と称し平家物語では世の無常を象徴する花として登場している。幹は滑らかな褐色で美しく、初夏の頃直径七センチ程の白い洗浄な花が咲く。絹毛の様な五弁の花は、朝咲いては、夕べに散り、平家物語では、この短い花の命を人の一生のはかなさ、平家一門の栄華と没落にたとえたと云われている。落花の姿も端正で花びらを散らすことなく、一花一花仰向けて落ち風情が深い。

※釈迦入滅の際の聖木として知られるインド原産の沙羅双樹（またはサラ）は、ツバキ科の常緑高木で熱帯樹のため日本の風土には育たない。



倉敷国ホテル

〒710-0046 倉敷市中央目1番44号（大原美術館隣）
TEL (086) 422-514 FAX (086) 422-5192
<http://www.kuras-kokusai-hotel.co.jp>

直営 料理旅館 鶴形

〒710-0046 倉敷中央1丁目3番15号
TEL (086) 424-163 FAX (086) 424-1650
<http://wvturugata.jp/>

ご宿泊・各種宴会承ります。



藤戸寺

源平藤戸合戦供養の寺
沙羅双樹花の寺



〒710-0133 倉敷市藤戸町藤戸57
電話 (086) 428-1129